

THE KEATING

昨年12月、サンディエゴの伝統的なオールドタウンにひとつのホテルが誕生した。100年以上もの歴史を持つ建物を、あのピンファリーナが全面的にリデザインした注目の宿。“伝統とモダン”が融合した「THE KEATING」の全容に迫る。

TEXT●清野たかし (Takashi Seino) PHOTO●柏田芳敬 (Yoshitaka Kashiwada) COORDINATE●田原耕三 (Kozo Tahara)
COOPERATION●THE KEATING <http://www.thekeating.com>

ア メリカ最南西端に位置する全米第7位の都市、サンディエゴ。この人口122万人の街はカリフォルニア発祥の地でもあり、西海岸で最初の白人街という歴史を持つ。現在も19世紀末の建物が大切に保存され、その伝統的な街並みが独特の風情を感じさせる。また、海を中心とした豊かな自然に加え、一年を通して日本の春のように穏やかな気候であることから、世界中から多くの観光客が集まってくる、全米屈指の観光都市としても知られている。

不動産業の若き成功者エドワード・ケインが、そんなバックグラウンドを持つこの街で一大プロジェクトを立ち上げた。そのプロジェクトとは、サンディエゴでも中心地に位置するヒストリカルエリアに点在する、19世紀の建造物を使ったホテル事業。彼が真っ先に目をつけたのは、19世紀後半にこの地で貿易業を営んでいたジョージ・キーティングが、愛する妻のために建てたという、たくさんの衣裳部屋を持つ5階建ての建物だった。それは、80年代の人気TVドラマ「サイモン&サイモン」の舞台に選ばれたほど、美しくも力強い魅力的な佇まいを持っていた。

ケインはこれをアーバンなブティックホテルに変貌させようとした。とはいえ、サンディエゴの市法により、このエリアの建造物への大きな改修や装飾はできない。そこでかねてからコンタクトを取っていたあのピンファリーナに、何か秘策はないかと相談を持ちかけたのだった。

周知の通り、ピンファリーナはフェラーリやマセラティなどに代表される多数の先進的なカーデザインを

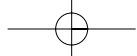


ピニンファリーナの宿。

手掛けるほかに、本誌でもすでに取り上げたように、様々な分野のインダストリアルデザインにも積極的に進出している、イタリアンデザイン界の巨星中の巨星である。そしてその巨星が今回、この斬新なプロジェクトに大いなる関心を示したことで、ケインが仕掛けたホテル事業は一気に前進することになる。

外観から客室、アメニティに至るまでのプロジェクトに対し、ピニンファリーナが出した回答は、「オールド・ミート・ザ・ニュー」、つまりは「伝統とモダンの融合」であった。100年以上も前に建てられた貴重な構造（外観に関しては基本的に手を加えない方針が取られた）、装飾品は極力省かずにご利用し、その中に現代の先進的なデザインを効果的に融合させていく。この

コンセプトは市のレギュレーションにも合致し、まさに伝統とモダンが見事に融合したホテルが誕生する。「THE KEATING」というネーミングは、前オーナーであるジョージ・キートン（George Keating）の名前をそのまま生かし付けられたもの。サンディエゴの街並みには、こうした建立者の名前が住所と一緒に建物に記されているものをよく見かける。このホテルもまた、その伝統を守ったのだ。1894年の建立当時から100年以上も使用され続けているという真鍮装飾のドアノブを開き、エントランスからロビーへ入る。するとまず目に付くのがホテルのシンボルである「a Port（ア・ポート）」。



1

「ゲート・ウェイ・トゥ・ニュー（新しさへの入り口）」の意味を持つ白い縁取りが、ゲストを出迎えるという趣向が凝らされているのだ。

赤と黒のコントラストを絶妙に活かした配色のパブリックスペースは、エントランスやロビー周辺が赤階段や廊下は黒が基調となり、華やかさとシックさが絶妙にバランスし、何か不思議な場所へと誘われるかのような感覚を抱かせてくれる。

薄暗い照明の内廊下から客室に入る。するといきなり南カリフォルニアの柔らかな陽射しに包まれた、実に眩い世界が目飛び込んできた。このインパクトには相当なものがある。光をも効果的にデザインしてしまふあたりに、ピンファリーナの底力を見せつけられた気がした。

室内を見渡すと、壁際に無造作に置かれたジャグジーから、カウンターにあるコーヒーマーカーまで、デザイン性を感じるものは、ほぼすべてがピンファリーナのデザインによるもので統一されている。ここには

2

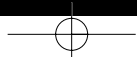


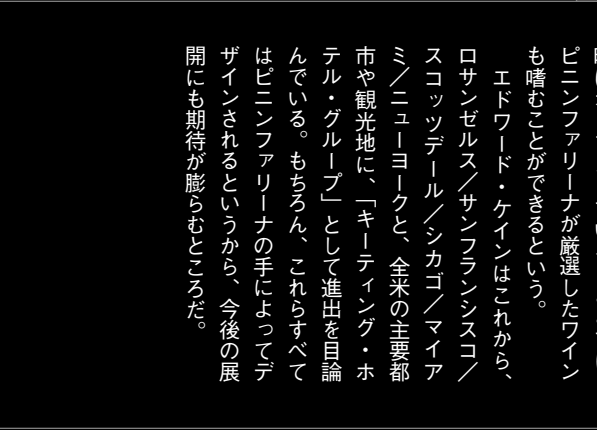
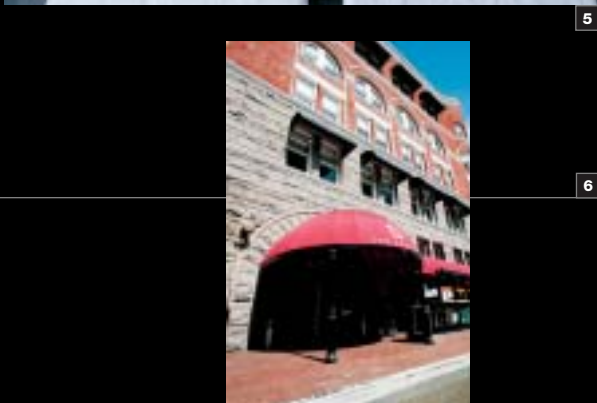
3

ピンファリーナがリリースするすべての製品が揃っているといっても、過言ではないほどだ。

2つとして同じ造りのない客室は、全35室用意され、写真のインペリアル（客室のランクで、レギュラーームがスタンザ、東南の角部屋がシーク、スーペリアルームがインペリアルとなる）は、米海軍が駐在する街だけにバトルシップをイメージしたというグレーの甲板色を床地にひき、壁はサンディエゴの空をイメージした淡いブルーに、白が効果的組み合わされた明るい配色となる。

壁に掛けられた液晶テレビ&スピーカーシステムはバンク&オルフェン。オーディオ機器など、ピンファリーナのデザインでないものに関しては、ホテルの運営陣が厳選して、この空間に見合った最上のデザインをチョイスしたのだという。





THE KEATING

1 スピーカーシステムを内蔵したバング&オルフセンの大型液晶テレビが、空極のデザイン空間に違和感なく溶け込んでいる。2 伝統とモダンの調和が見事に表現されたインペリアル・クラスの客室。至るところにピニンファリーナ・デザインの製品が置かれている。サンディエゴの空気感をイメージした、室内の配色が実に鮮やかな印象を醸す。3 客室に備え付けられるミネラルウォーターとグラスも、ピニンファリーナが手掛けたもの。4 独立したベッドルームはデザイン性の中にも機能性がしっかりと盛り込まれる。5 共用ではなく個々に分かれた洗面台。アメニティグッズ各種もピニンファリーナのデザインで統一。6 ピニンファリーナのジャグジー。そのインパクトは相当なもの。恋人とふたりで寛ぎたい。7 赤/黒の配色が眩しいバスローブ。8 シャワールームにも、デザイン性と機能性の融合が演出のひとつとして現れている。

The Keating
 Address : 432F st San Diego, CA92101
 Tel : +1-619-814-5700
 Fax : +1-619-814-5750
 Reservation : +1-877-753-2846
 URL : <http://www.thekeating.com>

歴史を感じさせる室内の梁や壁（一部は当時のレンガ壁がむき出しにされている）を活かしながら、随所にモダンテイストを盛り込むことで実現された空間には、先進のデザインアイテムを、どこかメロウな気分で見せる独特な空気が漂う。人によっては、時を忘れアーティストィックな気分になることもできる、それは特別な空間なのである。

他にも、取材時にはまだ改装中だったバー&ダイニングが3月29日のランドオープン時に完成。200人を収容できる地下ラウンジも、同時にオープンしている。ここでは、ピニンファリーナが厳選したワインも嗜むことができるという。

エドワード・ケインはこれから、ロサンゼルス/サンフランシスコ/スコットデール/シカゴ/マイアミ/ニューヨークと、全米の主要都市や観光地に、「キーティン・ホテル・グループ」として進出を目標としている。もちろん、これらすべてはピニンファリーナの手によってデザインされるというから、今後の展開にも期待が膨らむところだ。